

報告事項エ

令和4年度鳥取県「コミュニティ・スクール推進研修会」兼「地域学校協働活動研修会」の概要について

令和4年度鳥取県「コミュニティ・スクール推進研修会」兼「地域学校協働活動研修会」の概要について、別紙のとおり報告します。

令和4年12月22日

鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹

令和4年度鳥取県「コミュニティ・スクール推進研修会」兼「地域学校協働活動研修会」の概要

令和4年12月22日

社会教育課

地域社会のつながりや支え合いの希薄化による地域の教育力の低下や、学校が抱える課題の複雑化・困難化といった社会的課題の解決を目指すとともに、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた基盤として、地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていくため、学校運営協議会制度の活用や学校と地域が目標やビジョンを一つにして行う地域学校協働活動について学ぶことを目的に開催した。

なお、研修会は社会教育課と各学校教育担当課及び各教育局が協働で行った。

- 1 日時 令和4年11月14日（月）午後1時15分～4時20分
- 2 会場 米子市淀江文化センター さなめホール
- 3 対象 県・市町村行政関係者、学校管理職、教職員、学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター、公民館職員、学校支援ボランティア、PTA関係者、保護者、地域住民 等
- 4 参加人数 300名（内訳 地域の方176名、学校教職員105名、行政職員19名
参加方法 会場137名、ライブ配信163名、アーカイブ配信再生回数84回）

5 概要

(1) パネルディスカッション「ここが知りたい！CSと地域学校協働活動の関係性」

- ア 登壇者 進行役 文部科学省CSマイスター（南部町教育委員会教育長）福田範史 氏
コメンテータ 文部科学省CSマイスター（山口県教育庁義務教育課 主幹）相田康弘 氏
発表者 鳥取県立岩美高等学校 校長 辻中孝彦 氏
岩美町教育委員会 主任 亀井雅信 氏
山口県萩市立萩東中学校 学校運営協議会委員 工藤美佐 氏

イ 概要

【岩美高校の発表内容】

- ・次の3つの視座を大切に地域学校協働活動に取り組んでいる。
 - 「学校「自前主義」からの脱却」＝地域人材との協働
 - 「魅力創出の主体は学校であるべき」＝岩美町教委の先見性と厚意を無駄にしない、学校が主体的に地域へ声をかける
 - 「魅力創出のための「共通言語」で協働力を高める」＝「中学生が行きたくなる学校」に統一
- ・教職員の意識を変えるのは難しいが、生徒の変容が力になって変わってくる。
- ・中学生が行きたくなる、岩美高でしか行えない、岩美高ならではの教育を行う。
- ・岩美町は町から高校がなくなることに危機感を持っており、高校があることの重要性を理解。
- ・岩美高で生徒はなりたい自分を作り、地域と協働することで持続可能な地域を作る。
- ・これまで以上に学校と町が密に連携していく。学校の応援団を増やしていく。

(コメント)

- ・山口県では、「校長は学校の経営者ではなく、コミュニティ・スクール経営者だ」と言っているが、岩美高校は正にそうになっている。学校だけで全て完結するのではなく、地域とともに学校経営をすることが大切。

【萩東中学校の発表内容】

- ・萩東中学校区は平成26年からコミュニティ・スクールになった。「不登校の増加」「PTA活動参加者の減少」「教員の時間外の増加」という課題等に取り組んできた。
- ・保護者カフェで些細な疑問等を保護者間の横のつながりで解消。学校への問合せ減少につながる。
- ・不登校が問題になった際、学校運営協議会の承認を経て、家庭教育支援チームを立ち上げ。適応指導教室と連携し、アウトリーチの取組に繋がった。
- ・大切にしていることは「持続可能性」「できるだけ無理をしない」「既存をいかす」「目的の共有」。
- ・アイデアは学校や学校運営協議会などで合意形成しながら実現。「何のために、誰のために」を共有することが大切。卒業生や元PTAが次の人材として育ってきている。

(コメント)

- ・多くの場面で立場の違う人たちが、同じテーブルで「子どもたち」について語ることがポイント。

【進行役によるまとめ】

- ・なぜ、地域と学校が連携しなければならないのか。どのような状況がWIN-WINになるのか。地域と学校が協議する場が学校運営協議会である。
- ・思いや覚悟を持って、何をしなければならないのかを各々が考えることが大切。
- ・県教育審議会生涯学習分科会が県教育委員会に「建議」を提出されたが、建議で示されたものを参考に県でも進めていって欲しい。

(2) 講義「学校と地域でつくる子どもたちの未来～CSと地域学校協働活動の一体的推進について～」

講師 文部科学省CSマイスター（山口県教育庁義務教育課 主幹）相田康弘 氏

- ・様々な人々が協働し共通の目標に向かうために、学校運営協議会での「熟議」がある。目的を共有し、自分ごととして進める。
- ・「何をするか」が話し合いのテーマになりがちだが、そうではなく、何のためにするか、誰のためにするかが重要。
- ・これからの学校が本気で進めるべきことは、育成すべき子どもの資質や能力、学校区でめざす子ども像等について熟議すること。
- ・情報発信、広報は、何のために行ったかが伝わるのが大切。広報紙の見出しも「〇〇を行いました」ではなく、「〇〇の心構えを体感—●●実習—」のように目的が伝わる工夫を。

6 参加者アンケートの結果概要

(1) 回答者数

141名（内訳）学校管理職 57、教職員 14、教委事務局職員 15、学校運営協議会委員 37、地域学校協働活動推進員・コーディネーター等 10、その他 8

(2) 結果（抜粋）

○問 コミュニティ・スクールを充実させるためのポイントは何だと思いましたか？（複数回答）

項目	割合
学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と地域との協働活動を一体的に行うこと	62.1%
学校長のリーダーシップ（テーマ設定・説明など）	56.4%
地域への情報発信	47.1%
学校運営協議会委員の積極的な参画	42.9%
地域学校協働活動を行う人材の確保	37.1%
地域学校協働活動推進員・地域コーディネーターによる調整	18.6%
教育委員会による支援	11.4%
学校運営協議会の委員構成	10.7%
学校運営協議会の会議回数	2.1%

○自由記述欄（抜粋・要約）

【学校管理職】

- ・学校運営協議会での最初の言葉かけの仕方が印象に残った。「こういう活動をしたい」と活動の事を言うといふばらばらにやりたいことを言い出す。そうではなく、「こういう子どもを育成したい」という言い方であれば、一人ひとり一つの目標に向かっての意見を出してくるようになる、ということであった。なるほどと思った。教職員も、前者に陥っているかもしれない。やったらよいこと、楽しいことは山のようにあるが、それが学校課題や子どもの実態に照らし合わせてどうなのかということを検討することが大事だと感じた。

【学校教職員】

- ・先進的に学校地域連携に取り組んでおられる実践について学ぶことができ非常に参考になった。先進的な取組を進めていく際に、困難だったことや、今現在の課題などについてももっと知りたいと思った。
- ・学校だよりのタイトル、マンガでの説明、相田先生のお話が特に分かりやすかった。CSのことを全く知らない方でも理解しやすい素敵なマンガだった。事務職員も一層勉強を重ねていきたい。
- ・「意識改革で一番難しいのは、校内の教員たち」という言葉があり、身につまされると同時に大いに納得した。まず校内の全教員で、この話題で話し合うことが大切であるといつも思う。校長のリーダーシップのもと、必要性を実感し、自分ごととしてとらえていきたい。

【学校運営協議会委員】

- ・教育目標を学校と地域が一緒になって設定し、学校運営協議会で承認するということが明確に説明され、地

域の委員も我がこととして学校課題を捉え、どのように協力支援していくのか考えなければいけないと感じた。情報の共有化により各部署が活動できるような運営ができるようになるといいのかなと感じた。

【教育委員会の事務局職員】

- ・教育委員会として、学校を取り巻くたくさんの方々の、子どもたちへの関心を高めていく必要があると感じている。自分事として子どもたちに関わる風土を、町を上げて作っていく役割を教育委員会も担わなければならないと考えている。本町での取組はまだ始まったばかりだが、地域にある多くの人財をつなぎながら、わが町の子どもたちのための、学校のための取組の輪が広がるよう推進していきたいと思う。
- ・「学校教育は学校だけで行うもの」という認識からの脱却（特に学校教職員の意識改革）の重要性を感じた。

【地域学校協働活動推進員・地域コーディネーター】

- ・正解がない取り組みであるため、あきらめずに見直しながらやっていく活動であると改めて思った。
- ・学校だけで子どもを育てることはできない世の中である。
- ・教員の意識がどうなのか知りたい。どんな形で学校と連携したら一番よいのか悩みである。
- ・地域の中で子どもたちの力の活かし方や、子どもたちがいきいきと活動している様子、地域の人たちが家庭の困り感を共有し対策を立てている事例を学ぶことができた。
- ・コミュニティ・スクールの目的をしっかりと把握することの必要性を感じた。「事業をやりました」だけではなく、子どもたちの変化、地域の変化も見逃さない観察も必要である。始めは大きな力、負担もあるが、最初に頑張ればあとから結果がついてくると信じたい。